羽越水害４０年行事　「わたしの防災手帳」について

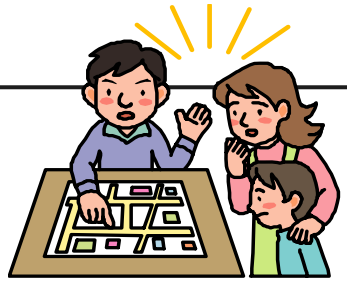
別紙－１

今求められる地域・家族の防災意識の向上

昭和42年8月に起きた未曾有の大洪水「羽越水害」は、多くの命と財産を一瞬のうちに奪い去りました。
今年は「羽越水害」から40年という節目を迎えますが、当時の体験を語り継ぐ方も減り始め、人々の災害に対する記憶の風化が危惧されます。
災害に対する記憶の風化は、人々の危機意識の低迷に繋がります。

いざという時、知識や経験がない人は的確な行動をとることができません。
また、知識を自分のものにするため、体験（訓練）を通し、災害に対して備えなければなりません。
人々のコミュニケーションが稀薄になりつつある今日、地域・家族が一丸となった防災意識の向上が強く求められます。

段階を踏んだ防災意識向上へのきっかけづくり



県民全体の防災意識を向上させるためには、段階を踏んでいく必要があります。
つまり、個人・家族から地域へ、地域から県全体へと段階を踏み、防災に対する意識を拡げ、
最終的には「防災会議」や「避難訓練・防災訓練」などの防災に対する行動へと繋げていくことが大切です。
その、きっかけ（ツール）の1つとして「わたしの防災手帳」を作成しました。

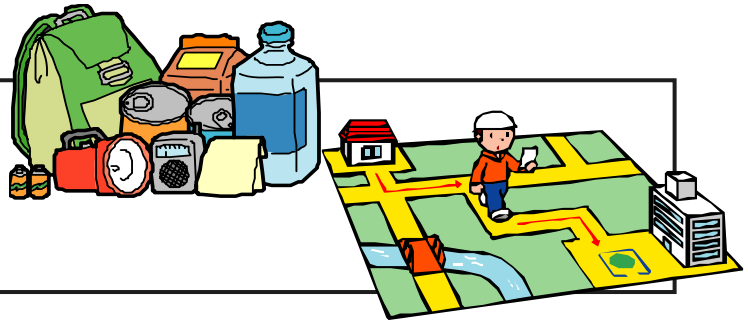
わたしの防災手帳とは

通常の災害マニュアル本やハンドブックなどとは異なり、個人や家族など「自分で作り上げる」ことに特化した「防災手帳」です。
ページには何の情報を記入するのかという「ひな形（欄）」のみを掲載し、あとは自分達で調べ、話し合い作り込んでいきます。
災害時の連絡先や持ち出し品、避難場所など、自分たちが住む地域や家族の特徴に合わせて、防災手帳を作り上げていくことで、
より実践的な手帳となります。
また、カードサイズになっているため、常に携帯しやすい手帳です。



＊「作成の手引き」をつけて配付いたします。

防災手帳を活用し、防災意識の向上に繋げる



災害時を想定しながら、「避難経路は」「「非常持ちだし品は」「災害時の連絡先は」など個人・家族で考え、話し合い、
自分達の目や足で確認しながら、作り込んでいく。
その行為が、家族・地域のコミュニケーションを深め、防災に対する意識を高めていき、結果「家族や地域の防災会議」
「避難訓練・防災訓練」などの県全体の防災への取り組み（行動）へ繋がると考えます。